

主要課題の整理

1 社会情勢の変化		社会の情勢や将来予測から考えられる教育の課題	
現状	将来予測	課題	
<p>(1) 少子高齢社会、人口減少社会の到来</p> <p>ア 経済規模の縮小、低成長時代 イ 厳しい経済情勢、雇用環境の変化 ウ 一方で進学率は上昇 エ 生徒の目的意識の希薄化など エ 核家族化や地域のつながりの希薄化(子どもの居場所がない)</p>	<p>○ 2012年は高齢者1人を現役世代2.4人で支える「騎馬戦」型の社会 → 滋賀県基本構想で展望している2030年には、1人を1.7人で支えることとなり「肩車」型社会に近づく ・ 社会活力の低下、税や年金負担の増加 ・ 男女共同参画・生涯現役時代 ・ 地域における家庭の孤立</p>	<p>○ 変化の激しい社会を主体的、共同的に生きる力を育てる ・ 自ら学ぶ態度、目的意識の育成 ・ 主体的に選択し決定する力の育成 ・ 社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の推進と就労支援 ・ 協力し合って集団や社会を支えるシチズンシップの育成 ・ 生涯を通じて学び続け、その成果を社会に活かす人の育成 ・ 生涯にわたりスポーツや運動に親しむ機会の充実、健康の維持・増進 ・ 家庭や地域の教育力の再生 ・ 教育費負担軽減など学習機会の確保</p>	
<p>(2) 進むグローバル化、情報化</p> <p>ア ひと・もの・情報が世界を行き交う イ ボーダレス社会 ウ 国際競争の激化 ウ 日本の環境技術や人道支援、災害対策などによる国際貢献</p>	<p>○ さらなるグローバル化の進展 ・ 新興国の台頭、産業の海外移転など国際競争が一層激化 ・ 環境や食糧、エネルギー紛争など、地球規模の課題 ・ 日本の相対的地位の低下</p>	<p>○ 新たな価値を創造し、イノベーションを先導する人を育てる ・ 一人ひとりの優れた能力や個性の伸長 ・ 対話や議論により問題を解決していくための言語力、コミュニケーション能力の育成 ・ 多様性を尊重し共生の中で互いを高めあえる人の育成 ・ 情報リテラシー、情報モラルの育成</p>	
2 子どもたちをめぐる状況の変化		子どもたちをめぐる最近の動きや変化から考えられる教育の課題	
変化	課題		
<p>揺らぐ子どもたちの「安全・安心」</p> <p>ア 東日本大震災が浮き彫りにした一層の防災対策の必要性 イ 深刻な「いじめ」や問題行動 ウ 子どもたちへの「体罰」の問題 エ 子どもたちが犠牲になる事故、犯罪の発生 オ 虐待やDVの問題</p>	<p>○ 安全・安心を確保し、思いやりや命を尊ぶ心を育てる ・ 災害・犯罪に備える学校防災・防犯対策の推進 ・ 子どもたちが自らの命を守る防災教育・安全教育の推進 ・ 子ども視点に立った「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応の推進(教員の感性と力量の向上、校内体制の構築、家庭・地域、関係機関との連携、第三者的立場から救済する仕組みの検討) ・ 不登校や問題行動等に対応するための学校における教育相談体制の充実 ・ 公正さや思いやり、命を尊ぶ道徳教育の推進 ・ 子どもの自尊感情を高め、人の尊厳を守る人権教育の推進 ・ 体罰の未然防止や望ましい指導方法等についての研修、子どもたちが相談しやすいよう、校長と教育委員会の共同による対応の徹底 ・ 子どもが健やかに育ち、子どもを安心して育てられる環境づくり、福祉や警察など関係機関との連携</p>		
3 教育の現状を踏まえた課題		教育の現状から考えられる課題	
<p>(1) 学力の向上 ア 基礎・基本の徹底 イ 思考力・判断力・表現力の育成 ウ 知識と経験、論理的思考、感性・情緒等を基盤として、自らの考えを深め、他者とコミュニケーションを行うために必要な「言語力」や、言語力を基盤とする「コミュニケーション能力」の向上 エ 自ら学ぶ、共に学ぶ目的意識、主体性、社会性の育成 オ グローバル社会で活躍するための国際理解力、英語力等の育成</p> <p>(2) 豊かな心の育成 ア 思いやりの心・規範意識等の社会性の育成 イ 自立心や豊かな人間関係の育成</p> <p>(3) 体力の向上 ア 運動習慣の定着やスポーツを実施する機会の充実 イ 基本的な生活習慣の確立など健康の保持増進</p> <p>(4) 魅力と活力ある学校づくり ア 子どもが学習、学校行事、部活動や仲間づくりに主体的に取り組める魅力と活力ある学校づくり イ 私学教育の振興</p> <p>(5) 特別支援教育の推進 ア 特別支援学校や特別支援学級の在籍児童生徒の急増対策 エ 特別支援学校卒業後の企業就労に向けた一層の取組 イ 就学相談のあり方の検討 オ インクルーシブ教育を踏まえた今後の対応 ウ 発達障害のある児童生徒への支援の一層の充実</p> <p>(6) 家庭・地域等との連携 ア 学校・家庭・地域、企業、関係機関が連携し、社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり、子どもと共に育つ教育の一層の推進</p> <p>(7) 教職員の教育力の向上 ア 教職員の資質向上 ・ 一方的に教えるのではなく、子どもたちの力を引き出し、主体的な学びを導く力、保護者に説明し、納得させる力、子どものSOSを読みとる感性や力量など、一層の能力、資質の向上 イ 教員の健康の確保</p>			
4 滋賀らしい教育の一層の推進		教育の特色や強みを生かす	
<p>(1) 豊かな自然を生かした自然体験活動や実践的な環境教育による自然や地域と共生する力の育成 (2) 伝統・文化の次世代への継承と、それをもとにして困難に立ち向かい、様々な課題を解決し、新しい時代を切り拓く力の育成 (3) 人と人、人と社会が「つながる」生涯学習社会づくり (4) 学校・地域・企業との連携を生かしたキャリア教育の推進 (5) 全国規模の大会開催をとらえたスポーツ・文化芸術活動の振興 ア 国民体育大会や高校総体を契機とするスポーツの裾野の拡大や競技力向上 イ 全国高等学校総合文化祭滋賀大会の開催を契機とする芸術文化活動の振興 (6) 高等教育機関の集積を生かした大学等との連携による教育</p>			
5 これまでの取組の評価		<p>評価を踏まえ、今後の方向性を検討</p>	
<p>(1) きめ細かな指導に向けた教育環境の充実や、各学校の特色を生かした魅力と活力ある学校づくりを進めた。 ア 少人数学級編制の実施 イ 特色ある学校づくり ・ 小学校1～3年および他の1学年 ・ 確かな自己実現支援事業 ・ 中学校1～3年 ・ アクティブハイスクール支援事業</p> <p>(2) 体験学習や本物の芸術に触れることを通じ、自然や地域と共生し、協力し合う心、豊かな感受性などを育てた。 また、職場体験を通じ勤労観・職業観を育んだ。 ア 環境教育・自然体験活動の推進 ウ びわ湖ホールで本物の舞台芸術に触れ、豊かな心や感受性を育む「うみのこ」「やまのこ」「たんぼのこ」 「ホールの子」事業 イ 「中学生チャレンジウィーク」の実施</p> <p>(3) 学校と地域の協働により、教育を支える取組を進めた。 ア スクールガード26000人体制 イ 学校支援センターの設置、家庭教育協力企業協定などの連携の取組</p> <p>(4) 教育の担い手である教員の人材確保対策を進めた。 滋賀の教師塾の実施等</p>			
6 関係計画等との整合		<p>整合等に留意</p>	
<p>(1) 上位計画である「滋賀県基本構想」の理念を踏まえる。 (2) 国が策定した「第2期教育振興基本計画」の内容を踏襲 <国の第2期教育振興基本計画の概要> 今後の社会の方向性：「自立」「協働」「創造」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築 教育行政の4つの基本的方向性： ①社会を生き抜く力の養成 ②未来への飛躍を実現する人材の養成 ③学びのセーフティーネットの構築 ④絆づくりと活力あるコミュニティの形成</p>			

上記を踏まえ 教育施策の推進が必要